

# 民間版画 ③

前2回の連載では、当館が所蔵する民間版画の概要と、その12分類のうち「門画」と「紫糊」について述べた。今回は残りの分類について紹介したい。

## 神像図



図1 竈神 20世紀前半、華北版の天地 35.0cm

元日の諸神を迎える儀式で祭壇に祀り、神迎えが済むと焚化する。

図1は竈の神（竈神）を描いた神像図である。竈神は司命之神・竈君・東厨司命などとも呼ばれている。一般的には各家庭の厨房に祀られる。竈神はその家に住む人の善行・悪行を調べ、旧暦12月23日（または24日）に天へ昇り、天上の神に彼らの一年間の行動を報告する。それによって翌年の禍福が決まるとされているので、できるだけ良い報告をしてもらうため、昇天する日には供物をささげて竈神を祀る（これを祭竈という）。祭竈では祈りの最後に神像図を燃やして天に送り、大晦日には新しい版画を用意して竈神を迎える。

本品には、竈神の上部に、民国25年（1936年）の月（旧暦）の大小と二十四節気が記された略歴が刷り入れられている。二十四節気は農作業の目安になる。

図2は前述の「百份」にあたる神像図で、「眼光娘」は一般的に女神を表す名称である。眼光娘は眼病を治してくれる女神と考えられている。

## 紙馬

「甲馬」、「甲馬子」、「神馬」などとも呼ぶ。中国明代の通俗小説『水滸伝』には、脚に甲馬を貼って一日に八百里を行くという話がある。

正月をはじめ、清明節（春の墓参）、端午節、中元節（お盆）などの行事には、それぞれに相応しい紙馬を祀って神を迎える。また冠婚葬祭にもさまざまな紙馬が祀られる。これら決まった行事以外にも、生活の折々に庶民が必要とする紙馬が用意されている。例えば田植えには水の神や田の神、土地の神を描いた紙馬を祀る。子どもが誕生すると、成育を守る神、厄を払う神が祀られる。夜泣きを止める神、熱を下げる神もある。平安を

札拝の対象である。正月には神像図を掛け、祭壇を設けて供え物をする。元旦の未明に新しい年の神を迎え、一家総出で礼拝する。家のそれぞれ決まった位置に神像図（財神、土地神、竈神、水神、牛馬神など）を祀り、一家の主が家族とともに礼拝する。

この他に「百份」とよぶ諸神像図がある。これは儒教、道教、仏教、民間信仰のあらゆる神を印刷して、百枚に近い数を集めて束ねたものである。安



図2 眼光娘 20世紀前半、華北版の天地 28.9cm

祈願する紙馬、厄除けの紙馬の種類は数限りない。みな願いを込めて焚化する。

図3の紙馬に描かれた「白虎」は、最も凶悪な疫病神のひとつとされる。万が一これに取り憑かれたと感じたら、僧や道士を呼んで白虎を追い出すための儀式を行い、この紙馬を燃やす。その後、籠にご飯・野菜・肉などを入れて野外に置き、白虎に捧げる。

## 年画

以前は「花紙」、あるいは単に「画兒」とも呼ばれていた。描かれる画の内容は吉祥を祈願するものが多い。美しい女性や元気な子どもたちを觀賞する画もあるが、その基底には吉祥祈願が流れている。吉祥図の他には、芝居や物語の一場面を描いたものも多い。これらは部屋の装飾を兼ねて、観て楽しんだ。時流に合わせた絵柄も売り出されていたようである。また年画には「二十四孝」や「孟母三遷」のような教訓的な内容の画がある。これは「勸戒画」と呼ばれ、年画は教育的な役割も持っている。

年画は軸装して室内に掛けたり、部屋の壁に直接貼る。新年を寿ぐ室内装飾として使われることが多いので、年末に大量に売り出される。軸装になったものは、時期が過ぎると外してまた翌年に使用したと思われるが、壁に貼ったものは汚れたり破れたりするので、新しいものと取り替えられたであろう。

図4は「連生貴子」と呼ばれる年画で、若い夫婦の部屋に貼り、優れた男児が沢山生まれることを願う。童子は右手に蓮、左手に笙を持つ。中国語では蓮=連、笙=生と発音が同じなので「連生貴子」（優れた子が続けて生まれる）の意味になる。2014年現在、本資料の模造品を当館一階の「中国・台湾コーナー」で展示している。

前回と今回の連載で、すでに中国民間版画の5分類について述べた。最後に、これら以外の7分類を簡単に紹介する。

窓画：新年に窓に貼る小型の版画など。

燈画：旧暦の正月15日（元宵節）に使用する灯籠、その他に走馬燈に貼る版画など。

幡画：祭壇の前面に貼る大きな版画。または門の上部に貼って使用する版画など。

挿図：扇の絵を刷ったもの。その他、小説の挿絵・地形図など

印記：商業宣伝用のチラシ、商業包装用の版画など。

遊芸：紙牌（カルタの一種）、版印を用いた玩具など。

その他：前述の11分類に属さないもの。吉祥符（辟邪、鎮宅平安、求子などを願うお札で、主に道士が作成する）、紙銭（金紙、銀紙）など。



図3 白虎 20世紀中頃、台湾版の天地 11.7cm



図4 連生貴子 20世紀前半、天津市楊柳青 47.3×46.7 (cm)